

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- 新学習指導要領を見据えた授業の充実を図る。
- 生徒一人ひとりが「わかる授業」を実現する。
- グループごとの調べ学習や話し合い活動、発表学習の推進を図る。
- 個に応じた指導や支援をより一層進める。
- 家庭学習の充実を図る。

＜本年度の学力向上策＞

＜国語＞

- ・市学習状況調査の結果から、論理的に説明したり、分かりやすく書いたりする力に課題があると考えられる。その改善に向けて、表現力や思考力を深めることも同時に身に付けることが必要である。発問や学習課題を工夫をし、発表の方法についても番組化や手紙文にしたりすることで、書く力を養っていききたい。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項をより習得するために、その基礎・基本となつてはたらく言語（語句の意味、漢字の読み書きなど）を身に付けることが大前提であり、併せて学んだことを普段の言語活動の中で活用していくことが求められる。そのため、年間を通して漢字練習（小テスト）を実施し、基礎的な言語に関する習得を目指す。また、言葉のきまりに関する学習内容を、書くことや話すことと結び付けていくことで、双方の力を確実に身につけていく。

＜数学＞

- ・市学習状況調査の結果から、基本的な事項の理解を着実なものにしていくために、小テストや単元ごとのテストを実施し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・上位層のさらなるレベルアップを目指し、数学的な見方、考え方や応用力を育成するために、日常の事象において、与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れる指導を実施する。
- ・今後も自分で考えたり、友達同士で話し合ったりするなど、生徒の主体的、能動的、協働的な活動を取り入れた授業に積極的に取り組んでいきたい。

＜社会＞

市学習状況調査の結果から、社会的な思考・判断・表現の項目と資料活用の技能の項目の正答率がやや低いことが分かった。今後、①授業マネジメント（ねらいの明確化、1時間の学習内容の振り返ることのできる板書の工夫）②基礎アップ（地図、年表、統計資料等の読み取り、具体例を用いてわかりやすく説明）③授業スキル（ニュース映像、新聞記事、ICTの効果的活用）④児童生徒の活動（学習課題解決）の4つの因子を生かした授業実践を心がけていきたい。

＜理科＞

理科として「確かな学力を身に付けるためには、自ら学ぶ姿勢が必要である」と考えている。そのため魅力のある導入から、アクティブ・ラーニング、確実な学習習慣の確立へとつなげ、確かな学力が身に付くよう、一連の流れを大切に授業を行っていく。また、市学習状況調査から、全体的に観察・実験の技能の項目の正答率がやや低いことが分かった。理科室が1つのため実験・観察を行うことが難しい環境ではあるが、可能な限り理科室を使用して体験の場を増やしていきたい。

＜G・S＞

市学習状況調査から、自分の思いや気持ちを言葉にしたり、文章を正確に読み取る能力が必要であると考えている。そのために

- ・4技能を統合した活動を多く取り入れ、コミュニケーション力の向上を図る。
- ・会話やスピーチなどのスピーキング活動の量を増やし、表現する力とコミュニケーション力の向上に努める。
- ・実際のコミュニケーションではその場の状況や相手の表情やジェスチャー、文脈など様々な情報から正確な情報を理解する力を付ける学習を進めていく。

＜その他＞

- ・テスト前、テスト前以外での適切な時期にも補習を継続的に実施する。
- ・「学習の道しるべ」を積極的に活用することにより、事前指導、事後指導を充実させ、定期テストを中心とした学習への取組に活かす。
- ・「オンリーワンノート」などの家庭学習の定着を図るための取組みを通して、家庭との連携をより一層密に行い、基礎学力の確実な定着を図る。

＜本年度の振り返り＞